

《担当者名》山田律子[rich@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

認知症をはじめ疾患・障害をもつ高齢者の生活上の課題に着目し、老年看護学の質の向上に貢献する先行研究を系統立ってレビューする。これまでの体験、関連科目での学修、教員・学生間での討論、文献のクリティークを通して自己の研究課題を明確にすると共に、課題に適した研究方法を吟味・選定し、研究計画書を作成する。倫理的配慮に基づきデータを収集・分析し、論文を作成・発表し、一連の研究能力を養う。

【学修目標】

1. 自己の研究課題を明確化すると共に、テーマに沿った文献検討を行うことができる。
2. 自己の研究課題に対して、適切な研究デザイン・方法を選択し、一貫性がある実施可能な研究計画書を作成できる。
3. 倫理的配慮に基づきデータ収集および分析ができる。
4. 学位論文としてまとめ、発表することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	自己の研究課題の明確化	1) 老年看護学の研究体系及び国内外の研究方法の動向ならびに研究方法の特徴について、新しい問題意識とその研究方法の取り組み方について討論する。 2) 先行研究のクリティークと討論により、自己の研究課題を明確化する。	山田
	研究計画書の作成	1) 個別の研究課題に関する研究計画書を作成する。 2) 研究計画書の作成に際しては、指導教員との個別指導およびゼミナール形式による討論や他者への説明を繰り返す中で、精度を高めていく。	山田
	研究の実施から論文の作成・発表まで	1) 研究対象者および研究機関に対する研究計画の説明と同意・承諾を得るための手続きを体験的に学ぶ。 2) 倫理的配慮に基づき、研究の実施ならびに分析を実施し、適宜、指導教員のスーパービジョンを受けながら進める。 3) 論文審査に向けた発表を通して、自己の研究成果について限界を踏まえつつ、一貫性のあるわかりやすいプレゼンテーションの方法と技術を学ぶ。	山田
	スケジュール(目安)	【1年目】 9～12月 研究課題・目的の明確化 1～3月 研究計画書の作成と提出 【2年目】 4～5月 倫理的手続き、データ収集の準備 6～9月 データ収集・分析 9～11月 論文の作成 12月 論文の提出 1～2月 論文審査と発表	山田

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

研究の準備状況、取り組み姿勢、研究課題の明確化、研究方法の選択、実施の適切性が50%、主査・副査による論文審査基準に基づく評価が50%

【教科書】

アメリカ心理学会(APA)/前田樹海,江藤裕之,田中建彦訳(2011). APA論文作成マニュアル. 第2版, 医学書院.

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

1. 自己の研究課題について国内外の文献を検索し、文献検討すること。
2. 自己の研究課題に関する理論や方法論について学修すること。
3. 各自で計画したスケジュールに沿って主体的に研究を遂行すること。

【実務経験】

山田律子（看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

これまでの各学生の体験を踏まえて、認知症をはじめ疾患・障害をもつ高齢者の生活上の課題に着目し、老年看護学の質の向上に貢献する先行研究の系統立ったレビュー、研究課題の明確化、課題に適した研究方法を吟味・選定し、研究計画書を作成することや、倫理的配慮に基づくデータ収集・分析、論文の作成・発表といった一連の研究プロセスを実践的に教育する。